

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理国語	2	全日制・普通科・3学年	論国708 論理国語（数研）

科目の目標	○ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○ 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力人間性等）
-------	---

時期 月 週	単元名		指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4月	「いき」の美学	B読むこと	6	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の点検 （ノート）	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 ・日本人の美意識について考える。	論理的な文章を読み、その内容を参考にしながら自分の意見を論じる。	
5月	「文化が違う」とは何を意味するのか？	B読むこと	6	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・新しい「普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。	文章中の例示の内容と同様の具体例を検討し話し合う。	
6月	学問の政治性	B読むこと	6	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	行動の確認	・「政治」に関する2つの文章を関連づけて読み、自分の意見を述べる。	二つの文章を関連づけて読み、自分の考えを論述する。	
7月	「である」と「すること」	B読むこと	6	① 知識・技能 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。〔(1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 関連する二つの文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまと	記述の確認	・文章内容を新聞の投稿文の内容と関連づけて考察する。	論理的な文章を読んで、筆者の考えを踏まえて自分の意見を発表する。	
9月	人はなぜ働かなくてはならないのか	A書くこと	12	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。〔(1)エ〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。	論理的な文章を読み、筆者の考えを踏まえて自分の考えを論述する。	

10月	意志と選択	B読むこと	7	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認	・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張をとらえる。 ・「意志」と「選択」を混同している例を具体的に考える。	抽象的な表現で述べられた筆者の主張を具体的に説明する。	
11月～12月	顔の所有	B読むこと	6	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	記述の確認	・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。	論理的な文章を読み、その展開の仕方を踏まえて筆者の考えを分かりやすく言い換える。	
12月～1月	無常ということ	B読むこと	8	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。	文章の内容を踏まえて考えたことを具体例や根拠を明示して話し合う。	
2月～3月	【探究の扉】我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る	A書くこと	13	① 知識・技能 推論の仕方について理解を深めて使っている 〔(2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、多面的多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	記述の確認	・統計資料から、日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」について読み取る。 ・「希望」が形成される過程を文章から読み取り、将来への希望をもつために必要なことについて自分の考えを論述する。	統計資料と文章を関連付けて読み、自分の考えを論述する。	
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		0					
	書くこと		25					
	読むこと		45					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
文学国語	3	全日制・普通科・3学年	文国706 文学国語（数研出版）

科目の目標	(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

時期 月 週	単元名		指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4月	ひよこの眼	B読むこと	10	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。	記述の確認	・「私」はどのような人物だと考えられるか、本文の出来事を踏まえてまとめる。 ・本文中から「手」の描写を抜き出し、それぞれの場面での「私」の心情を説明する。	情景描写に表れる主人公の心情を説明する。	
5月	クリーム	B読むこと	11	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「中心がいくつもあって、しかも外周をもたない円」の意味を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	行動の確認	・「中心がいくつもあって、しかも外周をもたない円」とはどのようなものかを話し合う。	抽象的な表現に込められた意味を話し合う。	
6月	赤い繭	B読むこと	11	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考えを豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 作品に込められた寓意を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	行動の確認	・この作品に込められた寓意について話し合う。	・この作品に込められた寓意について話し合う。	
7月	野火	B読むこと	11	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考えを豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。	行動の観察	・極限状態の中であらわにされる人間性について考え、「よりよく生きる」とはどのようなことか話し合う。	作品内容を踏まえて、「よりよく生きる」とはどのようなことかを話し合う。	
9月	檸檬	A書くこと	15	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考えを豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。	記述の点検	・「私」は檸檬をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。 ・心の不可思議さについて、自分が経験したことを八百字程度で書く。	作品内容を踏まえて、心の不可思議さについて経験したことを文章にまとめる。	
10月	秘やかな楽しみ	B読むこと	10	① 知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文章の特徴や効果について考察している〔B(1)ウ〕	記述の分析	・詩と小説では読者の印象はどのように変わるかを考える。	詩と小説が読者に与える印象の違いを考察する。	

				③ 主体的に学習に取り組む態度 小説と詩の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。				
11月～12月	瀬山の話	B読むこと	11	① 知識・技能 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 完成稿と草稿の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	記述の分析	・『瀬山』の話には「私」の話を聞く聞き手が存在している。このことによって『檸檬』の読まれ方とはどのような違いが生じるかを考える。	作品構成が読者に与える印象の違いを考察する。	
12月～1月	件	B読むこと	11	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考えを豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って説明しようとしている。	行動の観察	・自分自身がある日突然、「件」になったとしたら、どのような行動を取るかを話し合う。	作品内容を踏まえ、自分だったらどうするかを話し合う。	
2月～3月	舞姫	A書くこと	15	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考えを豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などをもとに、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『舞姫』『普請中』の登場人物の人物像を粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。	記述の分析	・豊太郎の置かれている状況を4つに分け、それぞれの時期で豊太郎が望んでいた生き方をまとめる。 ・エリスの豊太郎に対する心情の変化をまとめる。	同じ作者の他作品に登場する人物と比較し、それぞれの人物像をまとめる。	
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		0					
	書くこと		30					
	読むこと		75					
指導時間数の合計			105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等） 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名（出版社）		
日本史探究		3	全日制・普通科・3学年（Ⅱ類）		詳説日本史（山川出版社）		
科目の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月～ 5月	第10章 幕藩体制の動揺 (1) 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化	14	① 知識・技能 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。	定期考査	・農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する ・幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ・江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	授業態度			
6月～ 7月	第10章 幕藩体制の動揺 (2) 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	14	① 知識・技能 列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。	定期考査	・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ・近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ・都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	授業態度			
9月	第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	12	① 知識・技能 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。	定期考査	・江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。	授業態度			
10月	第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	12	① 知識・技能 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮、立憲体制の成立について、諸資料から情報を読み取って理解している。	定期考査	・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ・明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ・政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ・大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。	授業態度			

11月	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	12	① 知識・技能 日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 ② 思考・判断・表現 大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ・ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
12月	第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	10	① 知識・技能 産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 ② 思考・判断・表現 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。	定期考査	・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
1月～2月	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	14	① 知識・技能 戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 ② 思考・判断・表現 戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
2月	第16章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	9	① 知識・技能 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 ② 思考・判断・表現 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
3月	第17章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	8	① 知識・技能 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。 ② 思考・判断・表現 日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	定期考査	・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標		「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。						
教科の目標		○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
科目名		単位数	課程・学科・学年			使用教科書名(出版社)		
世界史探究		3	全日制・普通科・3学年(Ⅱ類)			高校世界史(山川出版社)		
科目の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞		評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～6月	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 1 文明の成立と古代文明の特質 2 中央ユーラシアと東アジア世界 3 南アジア世界と東南アジア世界の展開 4 西アジアと地中海周辺の国家形成 5 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	26	① 知識・技能 観点にもとづいて、ウルのスタンダードから情報を読み取り、効果的にまとめている。		定期考査	生業、身分、宗教、王権などを観点にして、ウルのスタンダードを読み解きながら、興味や疑問をもとに問いを表現する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 「戦争の場面」と「平和の場面」に描かれた人々の生活や身分、宗教的行為、役割などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点である生業、身分、宗教、王権などについて考察し、問いを表現している。		レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度黎明期の日本列島 第Ⅰ部に関わる諸事象について、課題意識や見通しをもって学習に取り組んでいる。		授業態度			
7月～ 9月	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 6 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 7 ヨーロッパ世界の変容と展開 8 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 9 大交易・大交流の時代 10 アジアの諸帝国の繁栄 11 近世ヨーロッパ世界の動向	28	① 知識・技能 ・8世紀以降のイスラーム教の各地への拡大と伝播の背景やその特色を、理解している。 ・宋から清に至る中国王朝の変遷と周辺地域との関連について理解している。 ・中世から近世に至るヨーロッパの情勢を、社会の動きや文化の特徴などから理解している。 ・イスラーム世界の拡大、中国王朝の変遷と周辺地域との関係性、ヨーロッパ社会の変化と文化の特徴について、考察している。		定期考査	○10～12世紀のカイロ・ウィーンの変遷を分析し、それぞれの社会状況の変化について、政治・社会・文化の観点から探究する。 ○8世紀以降のイスラーム教の各地への拡大と伝播の背景や状況を考察し、今日への影響を含めて理解する。 ○宋から清に至る中国王朝の変遷と周辺地域との関連について考察し、共通点や相違点を理解する。 ○中世から近世に至るヨーロッパの情勢を考察し、社会の動きや文化の特徴と関連付けて理解する。 ○イスラーム世界の拡大、中国王朝の変遷と周辺地域との関係性、ヨーロッパ社会の変化と文化の特徴の多様性について改めて定義し、理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・宗教の伝播による民族構成や、社会の変化の現代にいたる影響に着目しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中国王朝の変遷や領域の拡大が、交易や思想の伝播に与えた影響を関連付け、多角的多面的に考察し、表現している。 ・中世から近世に至るヨーロッパ社会の交易網の拡大や「世界の一体化」の進展について、各地域の状況を関連付け、多面的・多角的に考察し表現している。		レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度黎明期の日本列島 ・10～12世紀のカイロ・ウィーンの変遷の背景と、その変遷が人々の生活にどのように関わったのか話し合い、2つの国際都市が歴史上どのような位置づけを持つのか、その意味を主体的に追究しようとしている。 ・8世紀以降のイスラーム世界・宋から清に至る中国・中世から近世に至るヨーロッパ社会の変遷が持つ意味を、社会経済的位置づけの観点から比較、関連付けて追究し、何がどこまで明らかになったか、何を学ばなければならないかを自身で確認できている。 ・イスラーム世界の拡大についての学習を振り返り、文化の伝播と影響に関する学習の視点や方法について確認し、学習の視点や方法などのつながりを見出そうとしている。		授業態度			
10月～ 1月	第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 12 産業革命と環大西洋革命 13 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 14 アジア諸地域の動揺 15 帝国主義とアジアの民族運動 16 第一次世界大戦と世界の変容 17 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	36	① 知識・技能 ・19世紀にイギリスで旅行が大衆化し、またイスラーム世界でメッカ巡礼者が急激に増加した背景として、交通手段の発達や経済の発展があったことを理解している。 ・19世紀の国際的な人々の移動が、その後の世界におよぼした影響を理解している。		定期考査	○イギリスで始まった旅行の大衆化とメッカ巡礼者の急激な増加について考察し、19世紀の国際的な人々の移動とその影響について問いを表現する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・19世紀のイギリスで始まった旅行の大衆化や、イスラーム世界におけるメッカ巡礼者の急激な増加などに着目し、諸地域の結合・変容を読み解く観点である、「人の移動とその影響」について考察し、問いを表現している。		レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度黎明期の日本列島 第Ⅲ部に関わる諸事象について、課題意識や見通しをもって学習に取り組もうとしている。		授業態度			

2月～ 3月	第Ⅳ部 地球世界の課題 18 冷戦と第三世界の台頭 19 冷戦の終結と今日の世界	15	① 知識・技能 ・わたしたちの前にある、様々な地球世界の課題を適切に理解している。 ・課題の探究のために、効果的に資料を活用し、歴史的経緯を踏まえて、地球世界の課題を理解している。	定期考査	○グローバル化の進展、地域紛争やテロ、排外主義の横行、人権問題、自然環境問題、経済格差の拡大、科学技術など、地球世界の課題について、歴史的背景や事象相互の関連に着目して理解している。 ○諸資料を比較したり関連付けたりし、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について理解している。 ○地球世界の課題について、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主体的に探究しようとする態度を養う。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・様々な地球世界の課題の形成に関わる諸事情の歴史的背景や、事象相互の関連などに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度黎明期の日本列島 ◎地球世界の課題について、持続可能な社会の実現を視野に入れて、主体的に探究しようとしている。	授業態度			
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
政治・経済		3	全日制・普通科・3学年		最新政治・経済(実教出版)		
科目の目標		学習を通じて、現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身に付けることを目指す。社会課題に対する見方、考え方はさまざまあり多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在としての能力を養うこととくに重点を置く。 これを達成するために、さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定している。主体的、対話的な授業を通し、生徒が社会参画者であることの自覚を深めることを目標とする。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価基準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1部 第1編1章 1民主政治と法 2民主政治の基本原則 3民主政治のしくみと課題 4世界のおもな政治制度	8	① 知識・技能 ・政治と法の意義と役割について理解している。 ・民主政治のしくみと課題を理解している。 ・各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。	定期考査	○政治とは何か。国家とは何か。法の意義と役割とは何か。近代民主政治は、どのようにして成立したのだろうか。 ○社会契約説とは何か。法の支配とは何か。基本的人権の保障はどのように拡大していったのだろうか。 ○国民主権とは何か。議会制民主主義とは何か。権力分立と立憲主義はなぜ重要とされているのだろうか。 ○世界の国々が採用している議院内閣制と大統領制には、民主政治の諸原理がどのように反映されているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している。 ・基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義、基本的人権や法の支配の重要性、民主政治の課題、現実の政治制度に関する課題について主体的に理解・追究しようとしている。	授業態度			
4月	第1編2章 1日本国憲法の成立 2日本国憲法の基本原則 3自由に生きる権利(1)	6	① 知識・技能 ・日本国憲法の成立過程を理解している。 ・諸外国の憲法に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。	定期考査	○日本国憲法はどのようにして制定されたのか。明治憲法とはどのような違いがあるのだろうか。日本国憲法の三大基本原理とは何か。憲法改正とは何か。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・日本の憲法改正手続きについて、p. 21のQ&Aも踏まえながら、その運用上の課題について協働的に考察し、適切に表現している (p. 21／Try)。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・憲法の最高法規性や日本国憲法の原理、改正手続きなどについて主体的に理解・追究しようとしている。 ・日本国憲法の三大基本原理が私たちの人権や政治に果たしている役割について関心を高め、主体的に追及しようとしている。	授業態度			
5月	第1編2章 4自由に生きる権利(2) 5平等に生きる権利 6社会権と参政権・請求権 7新しい人権 8人権の広がりと公共の福祉 9平和主義と自衛隊 10日米安全保障体制の変化 1121世紀の平和主義	10	① 知識・技能 ・自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容と社会課題について信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類・整理したうえで、理解している。 ・社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動き、公共の福祉について具体的な事例を信頼性の高い情報源から収集し、理解している。 ・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景と変容、こんにちの課題について理解している。	定期考査	○日本国憲法が保障する基本的人権のうち、精神の自由にはどのような自由があるのだろうか。 ○社会権にはどのような権利があり、どのように保障されているか。 ○新しい人権は、どのような社会の変化のなかで求められてきたか。どのような権利が主張されているのだろうか。 ○平和憲法のもと、どのようにして自衛隊は創設され、活動範囲をひろげてきたのか。その背景とは何だろうか。 ○日米安全保障体制の役割は、どのように変化しているのか。沖縄がかかえている課題とは何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	道徳 総合的な学習の時間
			② 思考・判断・表現 ・自由権、平等権、社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 ・社会権の保障について、協働的に考察し、適切に表現している。 ・現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずからが調べて収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に、学習したことを社会の改善に生かそうとしている。	授業態度			

6月	第1編3章 1政治機構と国会 2内閣と行政機能の拡大 3公正な裁判の保障 4地方自治と住民福祉 5政党政治 6選挙制度 7世論と政治参加	10	① 知識・技能 ・国会、内閣の役割や権限、運営について理解している。 ・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。 ・地方自治の本旨について理解し、住民自治に基づく住民の権利や住民投票など、住民の意思を反映させる手段について理解している。 ・選挙制度の課題、政治活動に関する規制の現状について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 ・マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。 ・民意を国政に反映させる多様な方法について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。	定期考査	○国会の地位・役割・構成・権限とはどのようなものか。国会・内閣・裁判所の関係はどのようなになっているのだろうか。 ○内閣はどのような構成で、どのような権限をもっているか。行政の民主化に必要なことは何だろうか。 ○司法権の独立はなぜ重要か。違憲審査権の意義は何か。司法制度改革で司法はどうか変わったのだろうか。 ○地方自治の本旨とは何か。日本の地方自治はどのような財政上の課題をもち、国との関係はどうなっているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・議員立法に関する情報を読み取り、その課題について多面的に考察している。 ・より公正な選挙制度のあり方について、「多様な民意の反映」や「政治の安定」といった観点に立ちながら多面的に考察し、適切に表現している（p.53／Try）。 ・SNSやインターネットの普及が世論形成に与えるメリットとデメリットについて多面的に考察し、適切に表現している。	レポート	○政党とは何か。戦後日本の政党政治はどう変遷してきたのか。政党政治にはどのような課題があるのだろうか。 ○日本の選挙制度の特徴とは何か。選挙制度の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ○世論を政治に反映させるために何が必要か。メディアの責任とは何か。市民としてできることは何だろうか。		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・相手の意見を聞き、複数の選択肢を横断し、最適な解を模索している。 ・政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。	授業態度			
7月	第2編1章 1経済活動の意義 2経済社会の変容 3経済主体と市場の働き 4企業の役割 5国民所得 6経済成長と国民の福祉	8	① 知識・技能 ・経済の根本的な概念について理解している。 ・需要と供給により価格と生産量が変化することを理解している。 ・株式会社の仕組みについて、理解している。 ・福祉的側面からの指標や環境的側面からの指標、社会的側面からの指標などがあることを理解している。	定期考査	○経済活動とはどのように営まれているのだろうか。限りある資金や資源はどのように選択され、配分されていくのだろうか。 ○3つの経済主体間の経済循環はどのようなものか。市場の効率性と、その限界はどのような点にあるのだろうか。 ○株式会社のしくみにはどのようなものがあるのか。企業がになうべき社会的責任とは何だろうか。 ○経済活動の大きさをはかる指標には何があるのか。それぞれの指標は、どう関係しているのだろうか。 ○経済成長や景気変動の要因とは何か。経済活動の見方であるフローとストックの違いとは何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	家庭科
			② 思考・判断・表現 ・市場経済における生産要素の効率的な配分や、政府の適切な施策について多面的・多角的に考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や、政府による景気安定化政策について多面的・多角的に考察し・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・よりよい社会の実現を視野に、経済的な効率性と公平性の関係について学習したことを社会生活に生かそうとしている。	授業態度			
9月	第2編1章 7金融の役割 8日本銀行の役割 9財政の役割と租税 10日本の財政の課題	8	① 知識・技能 ・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解している。 ・財政に求められる機能について理解している。 ・日本の財政の現状と課題について、複数資料の読み取りを通じて理解している。	定期考査	○日本銀行が実施する金融政策の目的は何か。どのような方法で通貨供給量を調整しているのだろうか。 ○経済活動における財政の役割は何か。歳入の柱である租税は、どのようなしくみになっているのだろうか。 ○税制改革とは何か。財政の硬直化が生じる原因とは何か。財政構造改革とはどのような改革なのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・景気の局面に対処するため、日本銀行がどのような政策をとっているか、企業との関係も含めて多面的・多角的に考察、構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日本の財政の現状と課題を理解したうえで、財政再建について興味関心をもち、歳出減と歳入増の両面から再建のための方策を積極的に追究しながら、「財政健全化のあり方（p.112）」を探究するための意欲を高めている。	授業態度			

9月～ 10月	第2編2章 1日本経済の成長と課題 2中小企業と農業 3消費者問題 4公害防止と環境保全	8	① 知識・技能 ・戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。 ・農業政策の流れについて理解している。 ・消費者保護基本法から消費者基本法にいたる消費者行政の内容を知り、求められる消費者像の変遷について理解している。 ・政府による公害対策や環境保全のための法整備について理解している。	定期考査	○日本経済は戦後復興をどのようににはたしたのか。1990年代以降の長期不況に対し、どのような対策がとられたのだろうか。 ○日本の中小企業の現状と課題は何か。国際化の影響を受ける農業には、どのような農政が必要なのだろうか。 ○さまざまな消費者問題に、行政や消費者自身はどう対応しているのか。消費者の権利と義務とは何だろうか。 ○公害はなぜ発生するのか。公害防止や環境保全のためには、どのような対策が必要なのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	家庭科
			② 思考・判断・表現 ・今後の日本経済のあり方について、収集した諸情報にもとづいたうえで、「効率性」と「公平性」といった観点も踏まえながら多面的・多角的に考察し、表現している。 ・循環型社会の実現における課題を見出し、法制度と消費者の観点から協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、消費者問題について学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ・日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。	授業態度			
10月	第2編2章 5労働問題と労働者の権利 6こんにちの労働問題 7社会保障の役割と課題	8	① 知識・技能 ・労働基本権と労働三法の内容について理解している。 ・日本的雇用形態の特徴を理解しており、また、それらのあり方が崩れてきていることを理解している。	定期考査	○労働者の権利は、どのようにして確立してきたのか。労働基本権を具体化する労働三法とはどのような法律だろうか。 ○日本の伝統的な雇用形態は、どう変化してきたか。職場における人権の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ○社会保障制度は、どのように発展してきたのか。日本の社会保障制度のしくみと課題は何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	家庭科
			② 思考・判断・表現 ・どうすれば職場における不当な差別的取り扱いが解消できるのか、多面的に考察している。 ・日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的・多角的な観点（少子高齢化、年金制度、負担と給付のバランス）に立ちながら考察し、適切に表現している（p.105／Try）。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・「日本におけるワーク・ライフ・バランスの実現（p.116-117）」を探究するための意欲を高めている。 ・よりよい社会の実現を視野に、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。 ・日本の社会保障をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の社会保障制度やこれからの日本の社会保障制度について興味関心をもち、「日本における持続可能な福祉社会の実現（p.118-119）」を探究するための意欲を高めている。	授業態度			
11月	第2部 第1編1章 1国際社会と国際法 2国際社会の変化 3国際連合と国際協力 4こんにちの国際政治 5人種・民族問題 6軍拡競争から軍縮へ 7日本の外交と国際社会での役割	10	① 知識・技能 ・主権国家と国際社会の成り立ちについて理解している。 ・国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯について理解している。 ・人種問題について、具体例（公民権運動、アパルトヘイト）を踏まえながら理解している。	定期考査	○国際社会における戦争観や人権の考え方はどう変化したか。国際社会におけるN G Oの役割とは何だろうか。 ○冷戦の終結によって、国際社会はどうか変わったのか。紛争やテロの背景にはどのようなものがあるのだろうか。 ○戦後日本の外交はどう展開されてきたか。日本は国際社会でどのような役割を求められているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・難民や国内避難民について、どのような援助が必要とされているのかを協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・国際社会における法の支配について主体的に追究し、各国の国益を超えた問題解決に向けて意欲的に考察している。	授業態度			
11月～ 12月	第2編1章 1貿易と国際収支 2外国為替市場のしくみ	6	① 知識・技能 ・自由貿易のメリットを、比較生産費説をもとに理解している。 ・国際収支の考え方を理解している。	定期考査	○自由貿易や保護貿易の考え方が主張された背景は何か。国際収支は、どのように分類できるのだろうか。 ○外国為替とはどのようなしくみか。為替レートの変動が経済にもたらす影響にはどのようなものがあるだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・日本経済にとって、円高傾向がよいのか円安傾向がよいのかについて、協働的に考察し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自由貿易を推進するメリットと、近年先進国が保護貿易的な動きを見せていることについて主体的に追究し、望ましい貿易のあり方を意欲的に探究しようとしている。	授業態度			

12月	第2編2章 1第二次世界大戦後の国際経済 2国際経済の動向 3新興国の台頭 4経済のグローバル化とICTでかわる世界経済	8	① 知識・技能 ・世界経済が密接に関連しあい、グローバル・バリューチェーンを形成していることを理解している。 ・グローバル化によって人の往来が活発になり、そのなかで共生が課題となっていることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・公正な国際貿易体制とはどのようなものか、協働的に考察し、それらを適切に表現している（p. 141／Try）。 ・グローバリゼーションがもたらすメリットとデメリットにはどのようなものがあるか、多面的に考察している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・公正な国際貿易体制のあり方について主体的に追究し、各国が従うべき貿易のルール作りに関する課題を意欲的に解決しようとしている。	定期考査	○自由貿易や保護貿易の考え方が主張された背景は何か。国際収支は、どのように分類できるのだろうか。 ○戦後のIMF体制は、どのように変遷したか。貿易自由化をめざすWTOがかかえる課題は何だろうか。 ○グローバル化の進展は、経済や社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか。どのような課題が生じているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
1月	第2編2章 5発展途上国の課題と展望 6地球環境問題、資源エネルギー問題 7経済協力と日本の役割	8	① 知識・技能 ・南北問題について、その背景と現状について理解している。 ・パリ協定やSDGsの目標をめぐる現状と課題について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・日本のODAの特徴と課題はどのようなものか、資金の用途や貸与方式などの観点から協働的に考察し、適切に表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正（p. 160）」を探究するための意欲を高めている。	定期考査	○南北問題の解決に向け、発展途上国はどのように対応してきたのか。南南問題とはどのようなものだろうか。 ○化石燃料はなぜ大量消費されるのか。大量消費にともなう課題の解決に向け、どのような取り組みが進んでいるのだろうか。 ○貧困や飢餓の問題に対して、先進国や国連はどう対応しているか。日本のODAの現状と課題は何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
2月～3月	第3編 国際社会における諸課題の探究	7	① 知識・技能 ・各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	定期考査	・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学Ⅲ	3	全日制・普通科・3年(Ⅱ類)	新編 数学Ⅲ(数研出版)

科目の目標	極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	---

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	8	① 知識・技能 ・分数関数、無理関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ・グラフを利用することで、分数不等式、無理不等式を解くことができる。 ・逆関数の定義や求める手順を理解し、種々の関数の逆関数を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・分数関数、無理関数について、グラフの平行移動とともに理解し、考察することができる。 ・分数関数、無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替えることができる。 ・分数不等式、無理不等式の解を、グラフと直線の上下関係に読み替えることができる。 ・逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察することができる。 ・2つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という1つの関数として考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ・表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月	第2章 極限 第1節 1 数列の極限 2 無限等比数列	9	① 知識・技能 ・数列の極限値の定義を理解している。 ・簡単な数列の収束、発散を調べ、極限を求めることができる。 ・収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて、数列の極限が求められる。 ・無限等比数列の収束・発散を利用して、様々な数列の極限を求めることができる。 ・無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。 ・漸化式で表された数列の一般項を求め、数列の極限を求めることができる。 ・無限級数の表記について理解している。 ・無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散を調べられる。 ・無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・数列の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。 ・無限等比数列を、公比の値で場合分けし、その極限を考察することができる。 ・無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 ・繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察することができる。 ・無限等比級数の知識を利用して、数学的に循環小数を分数で表すことができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・不定形の数列の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。 ・「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に、興味・関心をもつ。 ・無限等比数列について、公比の値によって丁寧に場合分けし、極限を調べようとする。 ・項を「無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解しようとする。 ・無限級数の和の性質について理解し、それを用いて無限級数の和を求めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

6月	3 無限級数 第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2)	11	① 知識・技能 ・無限級数の表記について理解している。 ・無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散を調べられる。 ・無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。 ・簡単な関数の $x \rightarrow a$ のときの極限を求めることができる。 ・不定形を解消するなど、関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。 ・関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合を調べられる。 ・簡単な関数の $x \rightarrow \pm \infty$ のときの極限を求めることができる。 ・指数関数、対数関数の極限が求められる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 ・繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察することができる。 ・無限等比級数の知識を利用して、数学的に循環小数を分数で表すことができる。 ・極限の等式を成り立たせる必要条件を求めて、その十分性を確認することで関数の式の係数を決定することができる。 ・グラフを参考にしながら、関数の右側極限、左側極限、関数の極限の有無について考察することができる。 ・不定形を解消するように工夫して式を変形し、関数の極限を求めることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・項を「無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解しようとする。 ・無限級数の和の性質について理解し、それを用いて無限級数の和を求めようとする。 ・不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。 ・関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもつ。 ・不定形の関数の式を、不定形を解消するように工夫して変形しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
7月	6 三角関数と極限 7 関数の連続性	8	① 知識・技能 ・様々な関数の極限値を求めることができる。 ・定義に基づいて、様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。 ・連続関数の性質を理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・関数の式の変形が容易でない場合、「はさみうちの原理」を用いて極限を考察することができる。 ・直観的に中間値の定理を理解し、それを用いて方程式の実数解の存在を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・「はさみうちの原理」を用いて極限を求める方法に、興味・関心をもつ。 ・グラフをかくことで、様々な関数の連続、不連続を考察しようとする。 ・従来の定理とは異なる、存在定理として中間値の定理に興味・関心を示す。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
9月	第3章 微分法 第1節 導関数 1 微分可能と導関数 2 導関数の計算 第2節 いろいろな導関数 3 いろいろな関数の導関数	11	① 知識・技能 ・微分可能性と連続性の関係を理解し、連続ではあるが微分可能でないことを示せる。 ・導関数の定義を理解し、定義に基づいて微分することができる。 ・導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 ・三角関数の導関数を理解し、三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。 ・自然対数 e の定義と、対数関数の導関数を理解し、対数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。 ・指数関数の導関数を理解し、指数関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・微分係数の2通りの表し方を理解し、その図形的意味を考察することができる。 ・微分可能性を、定義に基づいて考察することができる。 ・導関数を、微分係数から得られる新しい関数として理解することができる。 ・指数を自然数、整数、有理数、実数と拡張しながら、考え方や方法を理解している。 ・対数微分法を利用して、複雑な関数を微分について考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・微分係数の図形的意味を考察しようとする。 ・微分可能性と連続性の関係について、興味・関心をもつ。 ・様々な導関数の性質や計算方法に興味をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ・指数が自然数、整数、有理数、実数と拡張されていくことに興味・関心を示す。 ・自然対数の底 e を考える必要性に興味をもち、考察しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
10月	4 第 n 次導関数 5 曲線の方程式と導関数 第4章 微分法の応用 1 接線の方程式	11	① 知識・技能 ・高次導関数の定義、表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。 ・方程式 $F(x, y) = 0$ を関数とみて、合成関数の導関数を利用して微分することができる。 ・媒介変数 t で表された関数の導関数を、 t の関数として表すことができる。 ・微分係数の意味を理解しており、接線・法線の方程式を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
			② 思考・判断・表現 ・高次導関数の計算において、第 n 次導関数の形を予想することができる。 ・陰関数表示 $F(x, y) = 0$ を、陽関数表示 $y = f(x)$ としなくても微分できることを理解している。 ・接線に直交する条件と、直線の方程式の公式から、法線の方程式の公式を考えることができる。 ・定点 C から曲線に接線を引くとき、接点 A における接線が点 C を通ると読み替えることができる。	定期テスト ノート			

			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・高次導関数の計算をするだけでなく、第n次導関数の式の形を予想しようとする。 ・陰関数$F(x, y)=0$を微分する方法の簡便さに関心を示す。 ・様々な曲線の媒介変数表示について興味をもち、考察しようとする。 ・$F(x, y)=0$で表された曲線の接線の方程式を、陰関数の微分法を利用して求めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
11月	2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 5 方程式、不等式への応用	11	① 知識・技能 ・平均値の定理と、その図形的意味を理解し、具体的に求めることができる。 ・平均値の定理を利用して、不等式を証明する方法を理解している。 ・関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に、増減表をかいて考察している。 ・導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減が調べられる。 ・導関数を利用して、関数の極値が求められる。 ・導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、$x \rightarrow \pm \infty$のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。 ・導関数を利用して、不等式を証明することができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・不等式の形から、平均値の定理を利用するための関数および区間を考察することができる。 ・平均値の定理を利用して「導関数の符号と関数の増減」の関係を証明する方法を、理解することができる。 ・$f(x)$が$x=a$で微分可能でなくとも、$f(a)$が極値となることがあることを理解している。また、その極値を求めることができる。 ・関数の極値が与えられたとき、必要十分条件に注意して関数を決定することができる。 ・第2次導関数の符号と導関数の増減の関係を理解している。 ・方程式$f(x)=a$の実数解の個数を、関数$y=f(x)$のグラフと直線$y=a$の共有点の個数に読み替えて考察できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・存在定理である平均値の定理に興味をもち、図形的意味を考察しようとする。 ・関数の増減や極値の問題を、導関数を用いて考察しようとする。 ・関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。 ・方程式や不等式を関数的視点でとらえ、解決しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
12月	6 速度と加速度 7 近似式 第5章 積分法とその応用 第1節 1 不定積分とその基本性質	8	① 知識・技能 ・直線上や平面上を運動する点の速度、速さ、加速度の定義を理解し、点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。 ・等速円運動の定義を理解し、等速円運動をしている点の速度、加速度を求めることができる。 ・導関数を利用して、種々の関数の近似式を作り、近似値を求めることができる。 ・不定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の不定積分を計算できる。 ・不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・導関数の意味から、点の位置を表す関数の導関数が速度、第2次導関数が加速度を表すことを理解できる。 ・微分係数の意味と図形的な意味から、関数の近似式を考察することができる。 ・微分法の逆演算として、不定積分を計算することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・直線上を運動する点の速度・加速度を基に、平面上を運動する点の速度・加速度を考察しようとする。 ・導関数を利用して、1次の近似式を考察しようとする。 ・積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月	2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 4 定積分とその基本性質	9	① 知識・技能 ・被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 ・様々な工夫によって被積分関数を変形することで、不定積分を求めることができる。 ・定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解することができる。 ・積の微分の逆演算として、部分積分法を理解することができる。 ・絶対値を含む関数の定積分が面積を表していると考えて、定積分の計算を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・簡単に不定積分の計算ができないとき、被積分関数の特徴から置換積分法や部分積分法を利用しようとする。 ・不定積分の公式が適用できるように式変形を工夫しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

2月	5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題 第3節 積分法の実用 7 面積	11	① 知識・技能 ・定積分の置換積分法では、積分区間の変換に注意して定積分を計算している。 ・偶関数、奇関数の定積分の性質を理解し、積分区間が原点对称のとき、それを利用して定積分の計算をすることができる。 ・定積分の置換積分法、部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。 ・上端、下端が変数xである定積分で表された関数の扱い方を理解している。 ・特別な形をした数列の和の極限を、定積分を利用して計算することができる。 ・応用例題4、練習25 ・関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解している。 ・面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを図をかいて考察している。 ・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ・媒介変数表示された曲線や直線で囲まれた部分の面積を、置換積分の考えで計算して求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・置換積分法を利用して、円の面積を求める公式が数学的にきちんと証明できたことを理解することができる。 ・積分区間が原点对称のときの偶関数、奇関数の定積分の計算を、図形的に理解することができる。 ・上端、下端がxである定積分をxの関数とみることができる。 ・曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。 ・不等式に現れる式の図形的意味を考えることで、定積分を利用して不等式の証明を考察することができる。 ・定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識している。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 ・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
3月	8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ	8	① 知識・技能 ・立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 ・回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。 ・数直線上を運動する点の座標、道のりを定積分を用いて求めることができる。 ・座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道のりを定積分を用いて求めることができる。 ・定積分を用いて、曲線の長さを求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・x軸やy軸を軸とする回転体の断面は円となることを理解し、回転体の体積について考察することができる。 ・座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道のりは、その点が描く曲線の長さに等しいことを理解している。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・立体の体積を計算するには断面積を表す関数を積分すればよいことに興味・関心を持ち、考察しようとする。 ・体積V(x)が断面積S(x)の1つの不定積分であることに興味・関心を持ち、考察しようとする。 ・数直線上を運動する点の座標、位置の変化量、道のりが定積分を用いて表せることに興味・関心を持ち、考察しようとする。 ・曲線の方程式が媒介変数表示や、y=f(x)の形で与えられているとき、曲線の長さが定積分を用いて表されることに興味・関心を持ち、活用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学C	2	全日制・普通科・3年(Ⅱ類)	新編 数学C(数研出版)

科目の目標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	---

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算	6	① 知識・技能 ・有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ・ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。 ・ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。 ・ベクトルの和の計算ができる。 ・ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。 ・ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。 ・ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。 ・ベクトルの平行条件を理解し、平行なベクトルを求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。 ・ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月	3 ベクトルの成分 第2節 ベクトルと平面図形 4 ベクトルの内積 5 位置ベクトル	7	① 知識・技能 ・ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。 ・成分表示されたベクトルの和、差、実数倍の計算ができる。 ・点の座標とベクトルの成分の関係を理解し、2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ・内積が実数であることを理解している。 ・ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ・成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。 ・成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。 ・ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。 ・三角形の面積がベクトルを用いて求められることを理解し、座標平面上の三角形の面積を求めることができる。 ・点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ・ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。 ・内分点、外分点の位置ベクトルを求めることができる。 ・三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。 ・例題2、練習14 ○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 ・ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ・例題5、練習22～23 ○内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ・位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・成分表示されたベクトルの演算法則を、ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ・ベクトルの内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。 ・内積の性質を、既習の知識を用いて証明しようとする。 ・三角形の面積が内積で表されることに興味・関心をもち、問題解決に利用しようとする。 ・線分ABをm：nに内分する点の位置ベクトルを求める過程を参考に、m：nに外分する点の位置ベクトルを、mとnの大小関係に関わらず自ら求めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

6月	6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示 第2章 空間のベクトル 1 空間の点 2 空間のベクトル	7	① 知識・技能 ・線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を、実際の図形に適用できる。 ・直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 ・通る1点と法線ベクトルから直線が定まることを理解し、具体的に直線の方程式を求めることができる。 ・空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・空間の点と原点との距離が求められるようになる。 ・空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探すことができる。 ・空間図形において、ベクトルの和や差を考えることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。 ・位置ベクトルの一意性を利用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・応用例題4、練習32 ・ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。 ・空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ・ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。 ・直線のベクトル方程式を積極的に活用しようとする。 ・座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ・平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから、ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
7月	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積	6	① 知識・技能 ・ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ・成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 ・座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ・空間のベクトルの内積や、成分表示された2つのベクトルのなす角を求めることができる。 ・平面上のベクトルの内積の性質は、空間においても同様に成り立つことを理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・座標空間の3点で定まる角の大きさを、ベクトルを活用して求めることができる。 ・ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・空間のベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。 ・平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
9月	5 ベクトルの図形への応用 6 座標平面における図形	7	① 知識・技能 ・位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ・位置ベクトルの一意性を利用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・応用例題3、練習14 ・ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ・座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 ・座標平面に平行な平面や、座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。 ・いろいろな球面の方程式が求められる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。 ・球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。 ・3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。 ・座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。 ・球面の方程式に興味をもち、一般的な考察をしようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

10月	第3章 複素平面 1 複素平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理	7	① 知識・技能 ・1つの複素数が複素数平面上で1つの点を表すことを理解し、点を複素数平面上に表すことができる。 ・共役複素数を求めることができる。 ・複素数平面上で、実軸、原点、虚軸に関して対称な点を表す複素数が、もとの複素数に対してどのような数であるか、理解している。 ・共役複素数の図形的意味を理解し、 z が実数であるための必要十分条件、 z が純虚数であるための必要十分条件を理解している。 ・複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。 ・複素数の和、差、実数倍を計算することができる。 ・複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 ・複素数の積、商の絶対値、偏角の性質を理解し、それらを求めることができる。 ・複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。 ・ド・モアブルの定理を理解し、複素数の n 乗を求めることができる。 ・1の n 乗根を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
			② 思考・判断・表現 ・複素数の絶対値の定義および図形的意味を理解し、説明できる。 ・複素数の和、差、実数倍の、複素数平面における図形的意味を理解し、説明できる。 ・共役複素数の性質を理解し、また、それらを証明問題に利用することができる。 ・共役複素数や $-z$ などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。 ・複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを、極形式を用いて考察できる。 ・1の n 乗根の求め方をもとに、一般の複素数の n 乗根を求めることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・複素数平面の定義から、複素数の和、差や実数倍が複素数平面上で何を意味するか自ら考察しようとする。 ・複素数 z が実数や純虚数になる条件について、様々な方法で考察しようとする。 ・複素数が $a+bi$ とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 ・極形式の有用性を理解し、複素数の乗法の図形的意味を理解しようとする。 ・複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 ・複素数の n 乗根を複素数平面上で図示し、その特徴を見出そうとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
11月	4 複素数と図形 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 1 放物線	7	① 知識・技能 ・線分の内分点や外分点を表す複素数を求めることができる。 ・複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。 ・原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 ・複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。 ・複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。 ・放物線が、焦点と準線からの距離が等しい点の軌跡であることを理解している。 ・放物線の標準形について理解し、放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 ・ y 軸が軸となる放物線の概形をかくことができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・線分の内分点を表す複素数を活用して、三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 ・点 z と連動して動く点 w が描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。 ・軌跡の考え方を用いて、放物線の方程式を導くことができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 ・複素数の方程式が表す図形について、複素数を $x+yi$ とおくなどして、複数の方法で考察しようとする。 ・既知の円や放物線などの曲線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

12月	2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動	5	① 知識・技能 ・楕円が、2つの焦点からの距離の和が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・楕円の標準形について理解し、楕円の概形をかいたり焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 ・焦点の座標などから、楕円の方程式を求めることができる。 ・焦点がy軸上にある楕円の概形をかいたり、焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 ・楕円が、円を拡大、縮小した曲線であることを理解している。 ・双曲線が、2つの焦点からの距離の差が一定である点の軌跡であることを理解している。 ・双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。 ・焦点の座標などから、双曲線の方程式を求めることができる。 ・直角双曲線の定義や方程式について理解している。 ・焦点がy軸上にある双曲線の概形をかいたり、焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。 ・x、yの2次式を変形して、2次曲線の概形を考えることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・軌跡の考え方をを用いて、楕円の方程式を導くことができる。 ・条件を満たす点の軌跡として、楕円の方程式を求めることができる。 ・軌跡の考え方をを用いて、双曲線の方程式を導くことができる。 ・焦点がy軸上にある双曲線の方程式について、焦点がx軸上にある双曲線をもとに考察できる。 ・曲線 $F(x-p, y-q)=0$ は曲線 $F(x, y)=0$ を平行移動したものであることを理解している。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・焦点がy軸上にある楕円の方程式について、焦点がx軸上にある楕円をもとに考察しようとする。 ・双曲線の漸近線について、曲線が限りなく近づくことを確かめようとする。 ・複雑な2次曲線の方程式を変形することにより、焦点や準線などを導こうとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月	5 2次曲線と直線	6	① 知識・技能 ・2次曲線の接線や接点を2次方程式の実数解を利用して求めることができる。 ・2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることがで	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・2次曲線と直線の共有点を連立方程式の解と捉え、共有点の個数について考察できる。 ・2次曲線と直線の接点を連立方程式の重解と捉え、接線の方程式を求めることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・2次曲線を、離心率eと1との大小をもとに、統一的に捉えようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
2月	第2節 媒介変数表示と極座標 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式	7	① 知識・技能 ・曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解している。 ・媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 ・放物線の頂点の軌跡を、媒介変数を利用して求めることができる。 ・円や楕円を媒介変数表示できる。 ・双曲線を媒介変数表示できる。 ・極座標による表示について理解し、点の極座標を求めたり、極座標が与えられた点の位置を求めたりできる。 ・点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 ・円や直線を極方程式で表すことができる。また、極方程式で表される曲線を図示することができる。 ・平面上の曲線について、x、yの方程式と極方程式を相互に変換できる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が描く曲線を求めることができる。 ・媒介変数表示された曲線の平行移動について、点の平行移動をもとに考察できる。 ・直交座標と極座標の関係性を理解したうえで、点の座標や方程式を相互に変換することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・曲線の媒介変数表示について、具体的に点をプロットしていくことで、どのような曲線か考察しようとする。 ・双曲線の媒介変数表示について、具体的に確かめようとする。 ・サイクロイドについて、具体的な点をプロットするなどして、媒介変数表示や曲線の概形を考察しようとする。 ・直交座標とは異なる方法で点の位置が表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 ・直交座標と極座標の関係に興味・関心をもち、積極的に相互の関係を考察しようとする。 ・2次曲線の極方程式について、離心率eと1との大小をもとに、統一的に捉えようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

3月	8 コンピュータの利用 第5章 数学的な表現の工夫 1 データの表現方法の工夫 2 行列による表現 3 離散グラフによる表現 4 離散グラフと行列の関連	5	① 知識・技能 ・媒介変数表示された曲線と極方程式で表される曲線を、コンピュータを用いて描くことができる。 ・データをパレート図に表現する方法を理解し、パレート図をかくことができる。 ・バブルチャートを用いると、3つの変量を視覚的に表現できることを理解している。 ・行列の記法やそれに関する用語を理解している。 ・行列の和と差の計算ができる。 ・行列の実数倍の計算ができる。 ・行列の積の計算ができる。 ・どのようなものを表現したいときに離散グラフを用いるのか理解している。 ・離散グラフの奇点、偶点の意味を理解している。 ・ダイクストラのアルゴリズムを用いて最短経路を調べることができる。 ・離散グラフの隣接行列について理解し、隣接行列を求めることができる。また、与えられた隣接行列をもつ離散グラフをかくことができる。 ② 思考・判断・表現 ・パレート図に表現することの良さを考察できる。 ・バブルチャートの特徴を理解し、バブルチャートで表されたデータの関連などを読み取ることができる。 ・日常の事象や社会の事象などを行列で表現する意義を理解し、行列で表現したり、行列やその計算結果からその意味を読み取ったりできる。 ・連結な離散グラフが一筆書きできる条件について、その理由とともに理解し、一筆書きできるかどうか判断できる。また、その理由を説明できる。 ・ダイクストラ法で最短経路が求められる理由を考察できる。 ・離散グラフの隣接行列の積が経路の数え上げに利用できることを理解し、経路の数を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・媒介変数表示や極方程式で表された曲線をコンピュータで描き、考察することに興味・関心をもつ。 ・データを表現するのに様々な方法があることに興味をもち、データの特徴や表現したいことに応じて、方法を検討しようとする。 ・パレート図が品質管理に用いられることに興味をもち、様々な判断にパレート図を活用しようとする。 ・行列による表現に興味をもち、様々なものを行列で表現したり、行列の演算結果を読み取ったりしようとする。 ・離散グラフによる表現に興味をもち、様々なものを離散グラフで表現したりそれを用いて考察したりしようとする。 ・離散グラフを一筆書きする方法を、試行錯誤によって見つけようとする。 ・離散グラフにおいて、最短の経路を試行錯誤によって見つけようとする。 ・離散グラフと行列を対応させることに興味をもち、経路の総数などの考察に積極的に活用しようとする。	小テスト 定期テスト	定期テスト ノート	ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
指導時間数の計		70							

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういい環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えたとともに、実験を通して科学的に考える力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
物理		4	全日制・普通科・3学年		高等学校 物理(第一学習社)		
科目の目標		(1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指 導 時 数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 第2節 剛体のつり合い	16	① 知識・技能 ・平面に拡張された運動を理解できる。 ・モーメントの意味を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・運動における式を導出できる。 ・物体にかかるモーメントを理解できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの運動や回転する物体について学んだこと をもとに興味関心を持つ。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	身の回りにある回 転の運動をしてい る物体を出し合っ て全員で共有す る。	数学
5月	第I章 運動とエネルギー 第3節 運動量の保存	16	① 知識・技能 ・運動量、力積を理解できる。 ・運動量の変化が力積であることを理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・運動量、力積を説明できる。 ・力積を与えられたときに変化後の運動量の導出がで きる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの運動における運動量や力積に興味関心を 持つ。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある物 体の運動の運動量 を出し合って全員 で共有する。	数学
6月	第I章 運動とエネルギー 第4節 円運動と単振動	16	① 知識・技能 ・円運動について理解できる。また慣性力、遠心力を 理解できる。 ・単振動について理解できる。また、復元力が場所によ って大きさが異なることを理解する。 ② 思考・判断・表現 ・観測者が外から見ているときと、一緒に回っている ときで考える力が異なることを理解する。 ・復元力の式を導出でき、場所場所の大きさを求める ことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの円運動や単振動している物に興味関心を 持ち、どのような力でその運動をしているのかを知ろ うとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある円 運動、単振動をし ているものを出し 合って、全員で共 有する。	数学
7月	第I章 運動とエネルギー 第5章 気体の性質と分子の運 動	16	① 知識・技能 ・気体の法則について理解できる。また、気体の内部 エネルギーや、気体による仕事を理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・気体の状態変化がどのような変化なのかを判断で き、それに対応する計算を行うことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りで気体の状態変化を利用している物に関心 を持ち、どのような仕組みなのか知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りで気体の 状態変化を利用し ている物を出し 合って、全員で共 有する。	数学
9月	第II章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波	16	① 知識・技能 ・波の性質を理解できる。 ・ドップラー効果を理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・波の反射や屈折について説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある波や音に興味関心を持ち、ドップ ラー効果などを実感できる。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある波や 音の性質を利用した 物を出し合って、全 員で共有する。	数学
10月	第II章 波動 第3節 光波	16	① 知識・技能 ・光の性質について理解できる。また、光の干渉につ いて理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・そのときそのときの光の干渉について光路差などを 用いて説明できる。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	身の回りある光が どのように干渉を 起こしているのか を考え、考えを出 し合って全員で共 有する。	数学

			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある光に関して、どのように干渉を起こしているのかなどに関心を持ち、知ろうとする。	・授業ノート ・グループワーク ・実験			
11月	第Ⅲ章 電気と磁気 第1節 電場と電位 第2節 電流	14	① 知識・技能 ・電気の性質について理解できる。また、電流と電圧の関係について理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・オームの法則について理解し、説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の周りにある電流と電圧の関係に対して興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにある電流と電圧の関係を 出し合って全員で 共有する。	数学
12月	第Ⅲ章 電気と磁気 第3節 電流と磁場 第4節 電磁誘導と交流	12	① 知識・技能 ・磁場の性質について理解できる。また、電流と磁場の関係を理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・フレミング左手の法則に代表されるように電流や磁場の向きの関係を理解し、説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある磁場について興味を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにある磁場がどのようなところで用いられているのかを考えて、全員で共有する。	数学
1月 ～ 3月	第Ⅳ章 原子 第1節 電子と光 第2節 原子と原子核	18	① 知識・技能 ・原子の構成を理解できる。また、放射線や崩壊についても理解している。 ② 思考・判断・表現 ・量子条件についてなぜそうなるのかを理解し、説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある放射線や原子の性質を利用した物に興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにある放射線や原子の性質を利用した物を出し合って、全員で共有する。	数学
指導時間数の計		140					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えるとともに、実験を通して科学的に考える力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
化学		3	全日制・普通科・3学年		新編 化学(数研出版)		
科目の目標		・化学的な事物・現象について、日常生活と関連付けながら知識を習得するとともに、化学基礎で履修した内容も踏まえて論理的に表現する力を養う。 ・観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、化学的な事物・現象に主体的に関わろうとする。 ・観察・実験から得られた結果を、化学的に考察する力を養うとともに、さらに探求しようとする知的好奇心を育てる。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造	10	① 知識・技能 ・イオン結合、共有結合、金属結合でできた物質について、それらの既習の知識と関連付けながら固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶の構造について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・様々な結晶の構造や性質について、作り上げている結合に注目しながら説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの様々な固体について、その結晶構造を、学んだことをもとに自ら考える。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	身近な固体を挙げ、その結晶構造について話し合い、意見を共有する。	数学
5月	第1編 物質の状態 第2章 物質の状態変化	10	① 知識・技能 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りや化学結合と融点・沸点の関係を理解するとともに、気液平衡や蒸気圧、状態図についても理解する ② 思考・判断・表現 ・気体分子の熱運動に運動エネルギーや温度が関係することを踏まえ、状態変化に伴う熱の出入りとその名称について説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・状態変化について、身近な例をもとにエネルギーや物質の状態について自ら知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	様々な状態変化における、エネルギーや融点・沸点、蒸気圧について、話し合い意見を共有する。	数学
6月 ～7月	第1編 物質の状態 第3章 気体	20	① 知識・技能 ・理想気体の状態方程式について理解し、それを利用した分子量計算についても理解する。 ・混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについても理解する。 ② 思考・判断・表現 ・気体の圧力を、ボイル・シャルルの法則や、状態方程式をもとに考え説明できる。 ・理想気体と実在気体の違いを説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・気体の圧力について、ボイル・シャルルの法則や、状態方程式をもとに自ら考え、知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	気体の圧力を、ボイル・シャルルの法則や、状態方程式をもとに考え、意見を共有する。	数学
9月	第1編 物質の状態 第4章 溶液	10	① 知識・技能 ・溶解の仕組みを理解するとともに、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。 ・コロイド溶液の性質について、身近な現象と結びつけながら理解する。 ② 思考・判断・表現 ・物質の溶解度や溶解平衡について、溶解の仕組みをもとに説明できる。 ・コロイド溶液について、一般的な溶液との違いを説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・物質の溶解について、溶解度や溶解平衡と関連付けて考えようとする。 ・コロイド溶液の性質を自らの目で見て確認しようとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 実験	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	コロイド溶液の性質を実験を通して、確認し、見たものについて意見を共有する。	数学
10月	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	10	① 知識・技能 ・化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れ、その熱量の変化をエンタルピー変化として記述することを理解する。 ② 思考・判断・表現 ・測定が困難な反応エンタルピーを、ヘスの法則やエネルギー図を用いて説明できる。 ・化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れることを、身近な例を踏まえて説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・化学エネルギーの発生や吸収について、ヘスの法則やエネルギー図から自ら知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	様々な化学反応における化学エネルギーの増減を、ヘスの法則やエネルギー図から考え、意見を共有する。	数学

11月	第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解	10	① 知識・技能 ・電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解する。 ② 思考・判断・表現 ・ダニエル電池や鉛蓄電池などについて、その仕組みを酸化還元反応と関連付けて説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・学んだことをもとに、ダニエル電池を自ら組み立て、電流が生じることを確認している。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 実験	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	ダニエル電池を組み立て、どうすれば電流を大きくすることができるか話し合う。	数学
12月	第2編 物質の変化 第3章 化学反応の速さと仕組み	10	① 知識・技能 ・化学反応の反応速度の表し方とともに、反応速度と反応条件（濃度、温度、触媒）の関係や反応のしくみ、触媒の利用について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・様々な化学反応の反応速度について、その仕組みを濃度、温度、触媒の関係をもとに説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な化学反応について、その反応速度を濃度、温度、触媒の関係をもとに自ら考えようとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	身近な化学反応の反応速度を、度、温度、触媒の関係から考え、意見を共有する。	数学
1月 ～3月	第2編 物質の変化 第4章 化学平衡	25	① 知識・技能 ・電解質水溶液における電離平衡について理解し、濃度や電離度と電離定数の関係やそれらを利用したpHの求め方を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・濃度や電離度と電離定数の関係を説明できる。 ・緩衝液の仕組みを説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な緩衝液を調べ、その化学平衡の仕組みを自ら知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	身近な緩衝液を挙げ、その化学平衡の仕組みを考え、意見を共有する。	数学
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えるとともに、実験を通して科学的に考える力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
生物	4	全日制・普通科・3年	高等学校 改訂 生物(第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
-------	--	--	--	--	--	--	--

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2週 ～ 5週 17日	第1章 細胞と分子	17	① 知識・技能 細胞の構造やタンパク質の働きについて理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において考察ができる。 細胞の構造やタンパク質の働きについて考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 細胞の構造やタンパク質の働きについてに関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 細胞の構造やタンパク質の働きについて理解している。 【ワークシート】 【実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 細胞の構造やタンパク質の働きについてについて主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・タンパク質がどのような働きをしているのか、レポートにまとめ発表する。	
5月 1週 ～ 5月 4週 17日	第2章 代謝	17	① 知識・技能 呼吸や光合成、窒素同化について理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 光合成や呼吸によるエネルギーの移動について考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 エネルギーと代謝について関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 呼吸や光合成、窒素同化について理解している。 【ワークシート】 【実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 エネルギーと代謝についてについて主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・生物がどのようにエネルギーを利用しているのかを調べ、表現する。	化学基礎・化学
5月 5週 ～ 6月 3週 16日	第3章 遺伝情報の発現	16	① 知識・技能 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについて理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 バイオテクノロジーについて考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについてに関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについてについて理解している。 【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについてについて主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・バイオテクノロジーがどのように応用されているか、レポートにまとめ発表する。	
6月 4週 ～ 9月 1週 22日	第4章 生殖と発生	22	① 知識・技能 動物の配偶子形成からその発生について理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 動物の配偶子形成からその発生について考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 動物の配偶子形成からその発生について関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 動物の配偶子形成からその発生について理解している。 【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 動物の配偶子形成からその発生について主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・さまざまな生物がどのように発生するのかを比較し、表現する。	家庭科 道徳

9月 2週 ～ 10月 3週 18日	第5章 生物の環境応答	18	① 知識・技能 植物の環境応答や動物の行動について理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 植物の環境応答や動物の行動について考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 植物の環境応答や動物の行動について関心を持ち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 植物の環境応答や動物の行動について理解している。 【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 植物の環境応答や動物の行動について主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・動物の行動についてグループで話し合い、レポートにまとめる。	
10月 4週 ～ 11月 4週 16日	第6章 生物群集と生態系	16	① 知識・技能 生物群集や生態系について理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 生物群集や生態系について考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 生物群集や生態系について関心を持ち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 生物群集や生態系について理解している。 【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 生物群集や生態系について主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・ヒトが生態系へどのような影響を与えているかをグループで意見を出し合う。	
11月 5週 ～ 12月 3週 18日	第7章 生物の進化	18	① 知識・技能 生命の誕生から進化のしくみについて理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 生命の誕生から進化のしくみについて考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 生命の誕生から進化のしくみについて関心を持ち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 生命の誕生から進化のしくみについて理解している。 【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 生命の誕生から進化のしくみについて意欲的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・生物の進化の過程について、レポートにまとめて発表する。	
12月 4週 ～ 1月 4週 16日	第8章 生物の系統	16	① 知識・技能 生物の分類や系統について理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 生物の分類や系統について考察し、生態系を保全することが重要であることを認識し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 生物の分類や系統について関心を持ち、主体的に探究している。 観察・実験に積極的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 生物の分類や系統について理解している。 【レポート】 【観察・実験ワークシート】 レポート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 生物の分類や系統について意欲的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・生物の系統について理解し、それを表現する。	
指導時間数の計		140					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
体育		3	全日制・普通科・3学年		現代高等保健体育(大修館書店)		
科目の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第1週	体づくり運動	10	① 知識・運動 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。	観察 学習カード	・ 個別の運動実践 ・ 課題の整理 （個別） ・ 運動計画の作成 （グループワーク） ・ 計画の発表 ・ 計画の実践	・ 意義・原則等を理解し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやグループの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論（豊かなスポーツライフの設計の仕方） ・ 保健（精神疾患の予防と回復） ・ 家庭基礎（生涯の生活設計）
			② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
5月 第2週 ～ 6月 第1週	球技 （ネット型） ・卓球 ・バドミントン ・バレー	13	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・ 個人練習 ・ 課題の整理 （ペアワーク） ・ 練習計画の作成 （ペアワーク） ・ 計画の発表 ・ 計画の実践 ・ 知識テスト ・ リーグ戦運営	・ 技術を解釈し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
6月 第2週 ～ 7月 第2週	球技 （ゴール型） ・バスケットボール ・サッカー	13	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	テスト 観察	・ 個人練習 ・ グループ練習 ・ 課題の整理 （グループワーク） ・ 練習計画の作成 （ペアワーク） ・ 計画の発表 ・ 計画の実践 ・ 知識テスト ・ リーグ戦運営	・ 技術を解釈し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、話し合いに貢献しようとし、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			

7月 第3週	体育理論 (豊かなスポーツライフの設計) ・生涯スポーツの見方・考え方 ・ライフスタイルにおうじたスポーツ	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健 (医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			
9月 第1週 ～ 10月 第1週	ダンス ・現代的リズムのダンス	13	① 知識・運動 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解している。 リズムの特徴を強調して、全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ることができる。	テスト 観察	・ペアワーク ・グループワーク ・発表	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
10月 第2週 ～ 11月 第1週	陸上競技	12	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 自己に適したペースを維持して走ることができる。	観察 学習カード	・グループワーク ・練習計画の作成	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第3週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	20	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・課題の整理 (ペアワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
1月 第2週	体育理論 (豊かなスポーツライフの設計) ・日本のスポーツ振興 ・スポーツと環境	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健 (医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			

1月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	18	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・グループ練習 ・課題の整理 (グループワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い教え合おうということなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。（知識及び技能） ○創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びに向かう力、人間性）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名（出版社）		
音楽実技B		3	全日制課程・普通科・3学年				
科目の目標		1 音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、創造的に表現するために必要な技能を身につけるようにする。（知識及び技能） 2 音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） 3 音楽に関する専門的な学習に主体的に取り組み、感性を磨き、音楽性豊かな表現を追究する態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	○右手・左手の奏法を学ぼう	8	① 知識・技能 ・鍵盤の仕組みや右手・左手の奏法について理解している。 ・ピアノ演奏をするために必要な、読譜力や体の使い方などの技能を身につけ、表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、音色を知覚し、それらの動きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ピアノの基本的な奏法について考え、音楽性豊かな表現を追求することに関心を持ち、ピアノ演奏の活動に主体的に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・受講者のレベルに合わせた複数のピアノテキストプリントを用いて右手、左手の奏法について学ぶ。 ・音符、休符、音部記号、拍子、変化記号、反復記号といった読譜の基礎知識を学ぶ。		
4月～ 5月	○両手でピアノを弾こう	13	① 知識・技能 ・両手を合わせて演奏する奏法について理解している。 ・ピアノ演奏をするために必要な読譜力や体の使い方などの技能を身につけ、表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、音色を知覚し、それらの動きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ピアノの基本的な奏法について考え、音楽性豊かな表現を追究することに関心を持ち、ピアノ演奏の活動に主体的に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・受講者のレベルに合わせた複数のピアノテキストプリント用いて両手でピアノを弾く奏法について学ぶ。 ・速度記号、音楽記号・用語について理解を深める。		
6月	○歌唱の基本を学ぼう	12	① 知識・技能 ・歌唱する際の体の使い方、発声などの基本について理解している。 ・豊かな歌唱表現をするために必要なふさわしい発声、言葉の発音、身体 の 使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、旋律、音色を知覚し、それらの動きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・歌唱表現の基本について考え、表現意図を持って歌うことに関心を持ち、主体的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・基本的な発声について学ぶ。 ・進路に合わせた複数の既成曲の楽譜を用いて、読譜力およびソルフェージュ力を向上させる。		
7月	○童謡を弾こう	12	① 知識・技能 ・ピアノの奏法、読譜について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な曲に相応しい奏法、身体 の 使い方などの技能を身につけ、演奏で表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、旋律を知覚し、それらの動きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ピアノの奏法を理解して演奏することに関心を持ち、主体的・対話的にピアノ演奏の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・童謡、幼児用の楽曲プリント等を用いて、保育現場で使 用される楽曲の伴奏を演奏する。	・互いに演奏を発表し合い、改善点や反省点を話し合う。	
9月	○童謡を歌おう	12	① 知識・技能 ・曲想と音楽の構造や歌詞について理解している。 ・豊かな歌唱表現をするために必要なふさわしい発声、言葉の発音、身体 の 使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ② 思考・判断・表現 ・旋律、リズム、強弱を知覚し、それらの動きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・歌唱表現の工夫について考え、表現意図を持って歌うことに関心を持ち、主体的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・童謡、幼児用楽曲プリント等を用いて、保育現場で使 用される楽曲を歌う。	・互いに演奏を発表し合い、改善点や反省点を話し合う。	
10月～ 11月	○高度な楽曲を弾こう	24	① 知識・技能 ・ピアノの高度な奏法、読譜について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な曲に相応しい奏法、身体 の 使い方などの技能を身につけ、演奏で表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、旋律を知覚し、それらの動きを感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ピアノの奏法を理解して演奏することに関心を持ち、主体的・対話的にピアノ演奏の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・受講者のレベルに合わせた様々なジャンルのピアノ曲を用いて、両手のやや高度で複雑な楽曲を演奏する。 ・楽曲に出てくる音符の特徴や運指の特徴について学ぶ。		

12月～ 1月	○演奏会を開こう	24	① 知識・技能 ・ピアノ演奏および歌唱における奏法や音楽の構造について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な曲に相応しい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、演奏で表している。 ② 思考・判断・表現 リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 表現を工夫して弾き歌いをするに関心を持ち、主体的・対話的に学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・進路に合わせた教材を各自が選択し、学習、練習、演奏する。完成度を高めて、発表の場を設け、互いの演奏を鑑賞する。	・互いに演奏を発表し合い、改善点や反省点を話し合う。	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる(知識及び技能) ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる(思考力、判断力、表現力等) ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
英語コミュニケーションⅢ		5	全日制・普通科・3学年(Ⅱ類)	MY WAY English CommunicationⅢ(三省堂)		
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標		聞くこと(L) :何が話題とされているかを理解し、情報や考えなどの要旨を理解することができる。 読むこと(R) :教科書本文の大まかな内容をつかむことができる。 話すこと[やりとり](SI) :相槌などの話し方を意識しながら身近な話題について意見を交換することができる。 話すこと[発表](SP) : 原稿などの準備をした上で、まとまった量のスピーチをすることができる。 書くこと(W) :自分のことについて理由や根拠を挙げて2～3文程度の英文を書くことができる。				
時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2週 ～3週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 1 Spelling Bee Blended Words	5	・ 英語の混成語について、理解して考えを深めることができる。 ・ スペリングコンテストに出場してみたいかについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	スペリングコンテストについての対話の概要や要点、詳細を聞き取る。 英語の混成語について、ブログ記事を読む。 自分で考えた混成語について、発表する。 スペリングコンテストに出場してみたいかについて、話し合う。 自分で考えた混成語について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
4月 3週 ～4週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 2 Green Roofs London- National Park City	6	・ ロンドンが国立公園都市宣言をしたことについて、理解して考えを深めることができる。 ・ CO2を減らすためにできることについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	グリーンルーフについてのニュースを聞き取る。 ロンドンが国立公園都市宣言をしたことについて、新聞記事を読む。 CO2を減らすためにできることについて、話し合う。 自分の街を緑化するためにはどうすれば良いかについて、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
4月 4週 ～4月 5週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 3 Robotic Pets Flying Cars	6	・ 空飛ぶ車について、理解して考えを深めることができる。 ・ どんな動物がペットロボットに向いているかについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	ペットロボットについての会話を聞き取る。 空飛ぶ車について、科学雑誌の記事を読む。 どんな動物がペットロボットに向いているかについて、話し合う。 空飛ぶ車の利点、欠点について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
4月 5週 ～5月 1週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 4 Buckwheat in the World Insects: Food for Future	6	・ 昆虫食について、理解して考えを深めることができる。 ・ 日本の農業を支えるためにできることについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	世界におけるソバの消費量、生産量についての講義を聞き取る。 昆虫食について、インターネットの記事を読む。 日本の農業を支えるためにできることについて、話し合う。 日本の食糧自給率をあげるにはどうすればよいかについて、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
5月 1週 ～5月 2週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 5 May Day Dragon Boat Racing	6	・ ドラゴンボートレースについて、理解して考えを深めることができる。 ・ 自分の好きなお祭りについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	メーデーについてのプレゼンテーションを聞き取る。 ドラゴンボートレースについての発表の内容を読む。 日本の伝統行事について、発表する。自分の好きな小和釣りについて話し合う。 日本の伝統行事について書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
5月 2週 ～5月 3週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 6 Mere Exposure Effect Placebo Effects	6	・ プラシーボ効果について、理解して考えを深めることができる。 ・ 新しいことに対してどう思うかについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	「単純接触効果」についての特別講義を聞き取る。 プラシーボ効果について、雑誌記事を読む。 新しいことに対してどう思うかについて、話し合う。 心理的効果について、調べたことを書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
5月 3週 ～5月 4週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 7 Amazin Abilities of Animals The Mine- Detecting Rat: Magawa	6	・ 地雷探知ネズミについて、理解して考えを深めることができる。 ・ 動物がどのような能力を持っているかについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	動物の驚くべき能力についてのプレゼンテーションを聞き取る。 地雷探知ネズミについて、インターネットの記事を読む。 動物がどのような能力を持っているかについて、話し合う。 地雷除去には動物とロボットのどちらが向いているのかについて、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
5月 4週 ～5月 5週	Unit1 Strategy for Listening & Reading 8 Actions for Saving Children A Reassuring Song	6	・ 人々を元気づける歌について、理解して考えを深めることができる。 ・ 難民キャンプにいる子どもたちのために自分ができることについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	子供を救うための行動についての会話を聞き取る。 人々を元気づける歌について、ブログを読む。 自分の好きな曲について、発表する。キャンプにいる子どもたちのために自分が貢献できることについて、話し合う。 自分の好きな曲について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
6月 1週 ～6月 3週	Unit2 Lesson 1 “Priceless” Café, “Priceless” Community	11	・ 「値段のないカフェ」について、理解して考えを深めることができる。 ・ 値段が設定されていないものを買うことの利点・欠点について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	お金を使わない生活を続けている人についてのプレゼンテーションを聞き取る。 「値段のないカフェ」について、新聞記事を読む。 値段が設定されていないものを買うことの利点、欠点について、話し合う。 値段がついていないものを買うことの利点、欠点について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
6月 3週 ～6月 4週	Unit2 Lesson 2 Nihonium□A New Element Born in Japan	11	・ ニホニウムが発見された経緯について、理解して考えを深めることができる。 ・ 試行錯誤を繰り返すことの利点について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる	シャボン玉を使った実験についての会話を聞き取る。 ニホニウムが発見された経緯について、科学雑誌を読む。 試行錯誤を繰り返すことの利点について、話し合う。 試行錯誤を繰り返すことの利点について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	

7月 1週 ～7月 3週	Unit2 Lesson 3 Tea in the Desert Climate	11	・中東やアフリカでお茶が多く飲まれる理由について、理解して考えを深めることができる。 ・お茶を飲むことの利点について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	インドで飲まれているミルクティーに関する講義を聞き取る。 中東やアフリカでお茶が多く飲まれる理由について、講義の内容を読む。 お茶を飲むことの利点について、話し合う。 お茶を飲むことの利点について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
9月 1週 ～9月 3週	Unit2 Lesson 4 The Benefits of Origami	11	・折り紙の効果について、理解して考えを深めることができる。 ・自分が好きなスポーツや趣味がもたらす効果について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	ミウラ折りに関する会話を聞き取る。 折り紙の効果について、プレゼンテーションの内容を読む。 趣味がもたらす効果について、話し合う。 趣味がもたらす効果について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
9月 3週 ～9月 4週	Unit2 Lesson 5 The Mysteries of English Spelling	11	・英語のつづりの特徴について、理解して考えを深めることができる。 ・英語のつづりや新しい表記について、意見を交換してまとめ、発表することができる。	英語の単語を紹介するラジオ番組を聞き取る。 英語のつづりの特徴について、ブログを読む。 英語のつづりや新しい表記について、話し合う。 英語のつづりや新しい表記について、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
10月 1週 ～10月 3週	Unit2 Lesson 6 New Discovery in the Nasca Lines	11	・ナスカの地上絵研究とAIの活用 について、理解して考えを深めることができる。 ・日常生活でAIに期待することについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	ナスカ文化展についての会話を聞き取る。 ナスカの地上絵研究とAIの活用について、国際雑誌を読む。 日常会話でAIに期待することについて、話し合う。 日常会話でAIに期待することについて、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
10月 4週 ～11月 2週	Unit2 Lesson 7 Today's Trash is Tommorrow's Treasure	11	・アイサト・シーセイさんのアップサイクル活動について、理解して考えを深めることができる。 ・どのようなアップサイクル製品に興味があるかについて、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	アイドルグループのアップサイクルに関する行動についての会話を聞き取る。 アイサト・シーセイさんのアップサイクル活動について、インターネットの記事を読む。 どのようなアップサイクル製品に興味があるかについて、話し合う。 どのようなアップサイクル製品に興味があるかについて、書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
11月 3週 ～11月 4週	Unit3 Lesson 8 Nap Time at School	11	・学校に昼寝の時間を導入することの是非について、理解して考えを深めることができる。 ・学校に関する問題について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	効果的な昼寝の方法についての会話を聞き取る。 学校に昼寝の時間を導入することの是非について、討論の内容を読む。 学校に関する話題について発表し、討論する。 学校に昼寝時間を導入することについて、自分の意見を書く	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
12月 1週 ～12月 3週	Unit2 Lesson 9 Dog Tax	11	・犬税を導入することの是非について、理解して考えを深めることができる。 ・動物に関する話題について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	世界の独特な税についての会話を聞き取る。 犬税を導入することの是非について、討論の内容を読む。 動物に関する話題について、討論する。 犬税を導入することの是非について、自分の意見を書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
1月 2週 ～1月 4週	Unit2 Lesson 10 Space Development	11	・宇宙開発に関する事実と意見について、理解して考えを深めることができる。 ・宇宙に関する話題について、意見を交換したり、書いて伝えたりすることができる。	将来なりたい職業についての会話を聞き取る。 宇宙開発に関する事実と意見について、ブログを読む。 宇宙に関する話題について、討論する。 宇宙開発について、自分の意見を書く。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
1月 2週 ～1月 4週	Reading 1 Anne of Green Gables	9	・『赤毛のアン』の物語について、理解して考えを深めることができる。 ・物語を読んで、物語の内容について、話し合うことができる。	物語の概要や要点、詳細を聞き取る。 物語を読んで、登場人物の気持ちなどについて、詳しく話して伝え合う。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
2月 1週 ～3月 3週	Reading 2 Rules are Rules?	9	・物語「規則は規則?」について、理解して考えを深めることができる。 ・物語を読んで、物語の内容について、話し合うことができる。	物語の概要や要点、詳細を聞き取る。 物語を読んで、登場人物の気持ちなどについて、論理的に詳しく話して伝え合う。	観察 小テスト(単元毎) 定期考査 パフォーマンステスト	
指導時間数の計		175				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる(知識及び技能) ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる(思考力、判断力、表現力等) ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
論理・表現 I		2	全日制・普通科・3学年	EARTHRISE English Logic and Expression I (SUKEN SHUPPAN)		
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標		聞くこと(L) :何が話題とされているかを理解し、情報や考えなどの要旨を理解することができる。 読むこと(R) :教科書本文の大まかな内容をつかむことができる。 話すこと[やりとり](SI) : 相槌などの話し方を意識しながら身近な話題について意見を交換することができる。 話すこと[発表](SP) : 原稿などの準備をした上で、まとまった量のスピーチをすることができる。 書くこと(W) :自分のことについて理由や根拠を挙げて2～3文程度の英文を書くことができる。				
時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2週目	はじめに	2	・中学校における基礎の確認	英語の語順や基本的な品詞の使い方を理解している。主語・動詞が判別できる。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
4月 2週～4 週目	Lesson1 Introduce yourself to your class	4	・クラスメートの名前や部活動などについて、英語で尋ねて発表することができる。 ・40語程度の英語で自己紹介文を書くことができる。	2人1組になり、相手のクラスメートの名前や部活動について聞く。聞いたものをまとめてクラスで発表をしたり、それをもとに自己紹介文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
5月 1週～ 2週日	Lesson2 How do you spend your weekends ?	4	・時制を用いて休日にしたことなどについて英語で伝え合うことができる。 ・30語程度の英語で自分の休日の予定を書くことができる。	2人1組になり、お互いに休日にしたことなどを聞く。聞いたものをまとめてクラスで発表をしたり、自分の休日の予定などについての文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
5月3週 ～4週 目	Lesson3 Where did you go onvacation?	4	・適切な時制を用いて自分の旅行の経験などについて英語で伝え合うことができる。 ・40語程度で自分の旅行を報告するブログ文を書くことができる。	2人1組になり、お互いに旅行の経験などを聞く。聞いたものをまとめてクラスで発表をしたり、自分の休日の予定などについての文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
6月 1週 ～2週 目	Lesson4 how can I get there ?	4	・mayやcanを用いてパートナーとルート案内し合うことができる。 ・mustやhave toを用いて40語程度の謝罪のメール文を書くことができる。	2人1組になり、お互いにルート案内などを行う。ペアで行ったものをクラスで発表する。また、見本に則って謝罪のメール文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
6月 3週 ～4週 目	Lesson5 Would you like to come with me ?	4	・wouldやcouldなどを用いて出席予定のイベントにパートナーを誘うことができる。 ・should have doneを用いて30語程度の後悔の文を書くことができる。	2人1組になり、出席予定のイベントにパートナーを誘い合う。ペアで行ったものをクラス全体で実演する。自分の後悔についての文章を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
7月 1週 ～3週 目	Lesson6 Something really Japanese	5	・be動詞＋過去分詞の形を用いてパートナーと自分が買おうとしているものについて伝え合うことができる。 ・be動詞＋過去分詞の形を用いて祭りに誘うメール文を40語程度で書くことができる。	2人1組になり、自分が買おうとしているものについて伝え合う。ペアで行ったものをもとに自分が買おうとしている物について20秒ほどでクラスに発表する。また祭りに誘うメールの文章を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月1 週～2 週目	Lesson7 Do you do any volunteer activities ?	5	・to doの形を用いて自分が参加したいボランティア活動についてパートナーと伝え合うことができる。 ・To doの形を自分の将来についてのレポートを40語程度で書くことができる。	2人1組になり、自分が参加したいボランティア活動について伝え合う。ペアで行ったものをもとに自分が参加したいボランティア活動について30秒ほどでクラスで発表する。また自分の将来についてのレポート文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月3 週目	Lesson8 Let's enjoy school life !	5	・want+0+to doの形を用いて部活動についてパートナーと伝え合うことができる。 ・let [make]+0+ doの形を用いて学校行事についてのスピーチ原稿を40語程度で書くことができる。	2人1組になり、部活動について互いにインタビューをし合う。ペアで行ったものをもとにインタビューの会話をクラスで発表する。また学校行事についてのスピーチ原稿を40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月4 週目	Lesson9 Are you eco-friendly?	3	・doing(動名詞)の形を用いて環境保護のためにできることについてパートナーと伝え合うことができる。 ・doing(動名詞)の形を用いて環境保護についてのスピーチ原稿を40語程度で書くことができる。	2人1組になり、環境保護のためにできることについて互いにインタビューをし合う。ペアで行ったものをもとにインタビューの会話をクラスで発表する。また環境保護についてのスピーチ原稿を40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
10月1 週目～ 3週目	Lesson10 What sports do you like ? Lesson11 That's new to me!	6	・doing(分詞)などの形を用いてスポーツイベントや労働時間についてパートナーとインタビューし合うことができる。 ・doing/done(分詞)などの形を用いて自分が最近したスポーツや特定の野菜などについてのブログやパラグラフを40語程度で書くことができる。	2人1組になり、スポーツイベントや労働時間について互いにインタビューをし合う。ペアで行ったものをもとにインタビューの会話をクラスで発表する。また自分が最近したスポーツや特定の野菜などについてのブログやパラグラフを40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
10月4 週目～ 11月2 週目	Lesson12 Which Nobel Prize winner do you admire most ? Lesson13 I'm interested in history	6	・who,whenなどの形を用いてノーベル賞受賞者や歴史上の偉人についてパートナーと伝え合うことができる。 ・who,whereなどの形を用いて自分が尊敬する人や歴史的建造物についてパラグラフを30～40語程度で書くことができる。	2人1組になり、ノーベル賞受賞者や歴史上の偉人について互いに伝え合う。ペアで行ったものをもとにクラスで発表する。また自分が尊敬する人や歴史的建造物についてパラグラフを30～40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	

11月3週目～12月3週目	Lesson14 Various countries around the world Lesson15What job are you interested in ?	6	・比較級や仮定法の形を用いて自分が行ってみたい渡航先や興味のある職業についてパートナーと伝え合うことができる。 ・who,whereなどの形を用いて2つの国の気候の違いや26歳の自分を想像した説明文についてを40語程度で書くことができる。	2人1組になり、自分が行ってみたい渡航先や興味のある職業について互いに伝え合う。ペアで行ったものをもとにクラスで発表する。また2つの国の気候の違いや26歳の自分を想像した説明文について30～40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
1月2週～4週目	ディベート・ディスカッション	8	・これまでに習った表現やディベート・ディスカッション頻出の表現を理解し使用することができる。 ・ディベート・ディスカッションの進め方について理解し実際に行ってみることができる。	賛成・反対の立場や各グループに分かれて、話し合う題目について、論理的な理由や根拠、例などについて考えさせる。 実際にディベート・ディスカッションを行ってみて、出た意見・考えなどについてまとめてクラスで確認し、感想などを日本語と英語で書かせる。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
2月1週目～3週目	まとめ	4	・これまでに習った表現などについて、具体的場面を意識してペアで伝え合ったり、書いたりすることができる。	2人1組になり、これまでに扱った具体的場面について互いに伝え合う。また同じく具体的場面を意識して30～40語程度の文章を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
簿記		3	全日制・普通科・3学年		新簿記(実教出版)		
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・ 能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1編 簿記の基礎 第1章 簿記の基礎	2	(知識・技術) 簿記の基礎的な知識を身につけたか。 (思考・判断・表現) 簿記を学ぶことの意義と必要性を考えたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 企業の簿記の意義と役割を知り、簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度がみられたか。	学習ノート 単元テスト	・簿記の意味・目的を明らかにして、記帳の重要性を理解させる。 ・簿記の種類、前提条件など簿記のアウトラインを理解させて、簿記の学習の心がまえを養う。		
	第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表	4	(知識・技術) 資産・負債・純資産(資本)の種類、貸借対照表の構造や役割、財産法の仕組みを理解したか。 (思考・判断・表現) 簿記の基礎概念として資産・負債・純資産が何かを思考し、それぞれの区分を適切に判断し、適切に表現できたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 資産・負債・純資産(資本)や貸借対照表について関心を示し、把握しようとする態度が見られたか。		・資産・負債・純資産(資本)の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解させる。 ・貸借対照表の意味・形式などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 ・純損益を計算する方法(財産法)を理解させる。 ・各種の等式を理解させる。	・貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産と、借方・貸方を暗唱する。	
	第3章 収益・費用と損益計算書	4	(知識・技術) 収益・費用の種類、損益計算書の構造や役割、損益法の仕組みを理解したか。 (思考・判断・表現) 簿記の基礎概念として収益・費用が何かを思考し、それぞれの区分を適切に判断し、適切に表現できたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 収益・費用や損益計算書について関心を示し、把握しようとする態度が見られたか。		・収益・費用の意味を明らかにし、純損益を計算する方法(損益法)を理解させる。 ・損益計算書の意味・形式などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 ・等式を覚えさせる。		
5月	第4章 取引と勘定	4	(知識・技術) 簿記上の取引の意味を理解しているか。 (思考・判断・表現) 取引の分解と勘定記入について適切に判断し、正確におこなえているか。 (主体的に学習に取り組む態度) 貸借平均の原理について関心を示し、把握しようとする態度が見られたか。	学習ノート 単元テスト 定期考査	・取引により、資産・負債・資本が増減することを理解させる。 ・勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解させる。 ・勘定口座の形式を明らかにする。 ・勘定の記入法に習熟させる。 ・取引を分解して、勘定に記入する方法を理解・習熟させる。 ・貸借平均の原理を理解させる。	・日つ→金額→相手科目の順に転記を行えるように、指導の際に一緒に「日つ金額最後に相手」と発声する。	
	第5章 仕訳と転記	5	(知識・技術) 仕訳の手順を理解しているか。 (思考・判断・表現) 転記について適切に判断し、正確におこなえているか。 (主体的に学習に取り組む態度) 企業の取引を仕訳することに関心を示し、仕訳と転記にも自ら進んで取り組もうとしたか。		・仕訳の意味を明らかにし、各種の取引の仕訳に習熟させる。 ・仕訳を勘定口座に転記する方法を理解させ、習熟をはかる。		
	第6章 仕訳帳と総勘定元帳	6	(知識・技術) 仕訳帳と総勘定元帳の意味と記帳法を理解しているか。 (思考・判断・表現) 仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確におこなえているか。 (主体的に学習に取り組む態度) 企業の取引を帳簿に記入することに関心を示し、記録を正確に行うことの大事さに関心を示したか。		・仕訳帳の形式・記入法を理解させ、記帳に習熟させる。 ・総勘定元帳の意味を明らかにし、仕訳帳からの転記のしかたに習熟させる。		
	第7章 試算表	3	(知識・技術) 試算表の意味との作成法を理解しているか。 (思考・判断・表現) 試算表の種類について思考し、適切に作成できたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 試算表がなぜ必要か考え、その役割について関心をもち、把握するような態度を示したか。		・試算表の役割・種類・それぞれの特徴などを明らかにし、その作り方に習熟させる。		

6月	第8章 精算表	2	(知識・技術) 精算表の意味との作成法を理解しているか。 (思考・判断・表現) 精算表の作成方法について思考し、適切に作成できたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 試算表がなぜ必要か考え、その役割について関心を持ち、把握するような態度を示したか。	学習ノート 単元テスト 定期考査	・精算表の役割を明らかにして、その作り方に習熟させる。 ・精算表から複式簿記のしくみを理解させる。		
	第9章 決算	5	(知識・技術) 決算の一連の手続きについて理解したか。 貸借対照表と損益計算書の作成方法を理解したか。 (思考・判断・表現) 資産・負債・資本の勘定と収益・費用の勘定の違いについて思考し、適切に勘定を締め切ることができるか。 (主体的に学習に取り組む態度) 決算がなぜ必要かについて関心を持ち、自ら学習する態度を示したか。		・決算の意味・必要性・重要性について理解させる。 ・決算手続き全体の流れを理解させ、その記帳に習熟させる。(英米式決算法) ・繰越試算表の役割を理解させる。 ・決算を正確に行う心がまえを養う。		
	第2編 取引の記帳 (その1) 第10章 現金・預金などの取引	4	(知識・技術) 現金・預金の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 現金・預金の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 現金・預金の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。		・現金に関する記帳方法と現金出納帳の記帳方法について理解させる。 ・現金過不足の処理法を理解させる。 ・当座預金勘定の記帳方法と当座預金出納帳の記帳方法について理解させる。 ・小口現金のシステムを理解させ、その記帳方法と記帳の習熟をはかる。		
7月	第11章 商品売買の取引	5	(知識・技術) 商品売買の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解したか。 (思考・判断・表現) 商品売買の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 商品売買の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	学習ノート 単元テスト	・分記法の復習から3分法による商品売買の記帳方法を理解させる。 ・仕入帳・売上帳・商品有高帳の役割と記帳方法を明らかにし、その記帳の方法に習熟させる。 ・商品有高帳については、先入先出法と移動平均法を理解させる。 ・売上原価を計算し、商品売買損益を計算する方法について明らかにする。	・それぞれ先入先出法と移動平均法によって記帳した場合、物価上昇と下落時において、売上原価がどう変化するのかを計算し意見交換する。	
	第12章 掛け取引	4	(知識・技術) 掛け取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 掛け取引の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 掛け取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。		・掛け取引の意味を明らかにし、売掛金勘定と買掛金勘定の記帳方法を理解させる。 ・人名勘定の意味を明らかにする。 ・売掛金元帳と買掛金元帳の役割を明らかにし、その記帳に習熟させる。		
	第13章 手形の取引	5	(知識・技術) 手形の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 手形に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 手形の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。		・手形の種類を明らかにする。 ・約束手形のしくみと記帳方法を理解させ、各種取引の記帳方法について習熟させる。 ・手形記入帳の役割と記帳方法を理解させる。		
9月	第14章 その他の債権・債務の取引	3	(知識・技術) その他の債権・債務の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) その他の債権・債務に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) その他の債権・債務の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	学習ノート 単元テスト	・売掛金・買掛金・受取手形・支払手形以外の各種の債権・債務について、その記帳方法や違いなどを理解させる。 ・各種の債権・債務の記帳に習熟させる。		

9月	第15章 固定資産の取引	2	(知識・技術) 固定資産の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 固定資産の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 固定資産の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。	学習ノート 単元テスト	・固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産に関する記帳方法を理解させる。 ・固定資産台帳の役割を明らかにする。	・固定資産を減価償却する意味について考え、償却せずにいた場合にどんな支障があるかを考え意見交換する。	
	第16章 個人企業の資本の取引	2	(知識・技術) 個人企業の資本の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 個人企業の資本に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 個人企業の資本の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。		・個人企業における資本の元入れ、引き出しなどの記帳方法を理解させる。 ・引出金勘定を用いた場合の記帳方法を理解させる。 ・所得税と住民税の納つは資本の引き出しにあたることを説明し、その記帳方法を理解させる。		
	第17章 販売費と一般管理費、税金の取引	2	(知識・技術) 販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 販売費及び一般管理費に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 販売費及び一般管理費の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。		・販売費及び一般管理費の意味と記帳方法を理解させる。 ・個人企業に課せられる税金と消費税の記帳方法を理解させる。		
10月	第3編 決算 (その1) 第18章 決算整理 (その1)	6	(知識・技術) 決算手続きの意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身につけたか。 (思考・判断・表現) なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えるのかに関心をもち、自ら考える態度を示したか。	学習ノート 単元テスト 定期考査	・決算整理の意味とその必要性を理解させる。 ・3分法による商品売買に関する勘定の整理、貸し倒れの見積もり、減価償却の処理法を理解させ、その記帳に習熟させる。		
	第19章 8桁精算表	3	(知識・技術) 8桁精算表の意味を理解し、作成方法について基礎的・基本的な知識を身につけたか。 (思考・判断・表現) 8桁精算表と6桁精算表との作成方法の違いについて思考し、適切に作成する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 8桁精算表に関心をもち、その有用性について自ら考える態度を示したか。		・8桁精算表の意味を明らかにし、その作成に習熟させる。		
	第20章 帳簿決算	3	(知識・技術) 総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成について基礎的・基本的な作成方法が身についたか。 (思考・判断・表現) 決算整理を含んだ帳簿決算について、一定の方法に従って判断処理しているか。 (主体的に学習に取り組む態度) 作成した会計帳簿や貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を把握しようとしているか。		・帳簿決算の意味とその必要性を理解させる。 ・総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成に習熟させる。		
11月	第4編 会計帳簿と帳簿組織 第21章 会計帳簿	2	(知識・技術) これまで学んでいる諸帳簿の記帳法を理解をしているか。 (思考・判断・表現) ビジネスの諸活動について、記帳にどの帳簿または伝票を用いてよいかの判断ができ、適切に表現できるか。 (主体的に学習に取り組む態度) 帳簿の種類や形式について関心を高めたか。	学習ノート 単元テスト 定期考査	・いままで学んだ帳簿の種類をあげ、分類させてみる。 ・分課制度と帳簿組織との関連について理解をはかる。		
	第21章 会計帳簿	4	(知識・技術) 仕訳帳との違いを含めて伝票の意味と作成方法を理解しているか。 伝票の起票、集計・転記が適切にできるか。 (思考・判断・表現) 入金取引・出金取引・その他の取引にどの伝票を用いるかの判断を通じて、記帳の合理化を考えることができるか。 (主体的に学習に取り組む態度) 伝票による取引の記帳法と集計・転記に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしたか。		・証ひょう・伝票の意味とその役割を明らかにする。 ・3伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを理解させ習熟をはかる。		

11月	第23章 会計ソフトウェアの活用	3	(知識・技術) 取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解したか。 (思考・判断・表現) 会計ソフトウェアの活用方法について思考し、記帳の合理化を達成する方法を考えることができるか。 (主体的に学習に取り組む態度) 会計ソフトウェアの活用に関心を高め、その運用方法について積極的に学ぼうとしたか。	学習ノート 単元テスト 定期考査	・取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解させる。 ・会計ソフトウェアと伝票・証ひょうとの関わりを明らかにし、伝票・証ひょうから会計ソフトウェアに取引を入力する方法に習熟させる。		
12月	第5編 取引の記帳（その2） 第24章 特殊な手形の取引	4	(知識・技術) 手形の裏書譲渡・割引・書き換え、不渡手形等の取引に関する基本的な内容と記帳法を理解したか。 営業外受取手形と営業外支払手形の取引に関する基本的な内容と記帳法を理解したか。 (思考・判断・表現) 特殊な手形の取引について自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) なぜ商業手形と金融手形は勘定科目を区別しなければならないのかに関心をもち、自ら調べる態度を示したか。	学習ノート 単元テスト	・手形の裏書譲渡・割引・書き換え・不渡りの意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ・営業外受取手形と営業外支払手形の意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。		
	第25章 有価証券の取引	2	(知識・技術) 有価証券の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解したか。 (思考・判断・表現) 有価証券とその他の手形取引に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 有価証券とその他の手形取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしているか。		・有価証券の意味と計算のしかた、買入れたとき、売却したときの記帳方法を理解させる。		
1月	第26章 本支店会計	7	(知識・技術) 本支店間の取引、支店相互間の取引などに関する基本的な内容を理解して、基礎的な技術を身につけたか。 本支店の合併貸借対照表と合併損益計算書について基本的な内容を理解し、作成法を身につけたか。 (思考・判断・表現) 本支店間の取引、支店相互間の取引について、その記録・計算・整理に関する問題の解決を目指して、自らの考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 本支店の貸借対照表と損益計算書の合併の手続きとその作成法に関心をもち、進んで取り組み、作成した貸借対照表と損益計算書からビジネスの諸活動を理解	学習ノート 単元テスト	・支店会計の独立の意味を理解させる。 ・支店会計が独立している場合の本支店間の取引、支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。 ・本支店合併の損益計算書・貸借対照表の作り方を理解させ、その作成に習熟させる。	・本店支店の役割を分担し、相互の取引がどのように記帳されるかを体験してその意味を話し合う。	
	第27章 （発展学習）最近の実務に広がる取引	2	(知識・技術) クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の取引に関する基本的な内容とその記帳法を理解したか。 (思考・判断・表現) クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務に関する記帳に自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 最近の実務に広がる取引に関心を高め、日常生活で行われている取引について、どのような仕組みで表すか		・クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の意味を明らかにし、理解させる。		
2月	第6編 決算（その2） 第28章 決算整理（その2）	6	(知識・技術) 費用・収益の繰り延べと見越し、切手・はがきなどの未使用分の処理、有価証券の評価、間接法による減価償却の記帳などに関する基礎的・基本的な技術を身につけたか。 (思考・判断・表現) 費用・収益の繰り延べ・見越しなどを含んだ財務諸表について自らの思考を深め、適切に作成できているか。 (主体的に学習に取り組む態度) 費用・収益の繰り延べ・見越しなどを決算整理として行う理由に関心をもち、自ら進んで調べる態度を示したか。	学習ノート 単元テスト 定期考査	・費用・収益の繰り延べ・見越しや切手・はがきなどの未使用分の意味とそれぞれの記帳方法を理解させ、習熟をはかる。 ・減価償却の間接法、有価証券の評価替えなどの記帳方法を理解・習熟させる。 ・費用・収益の繰り延べ・見越し、間接法、有価証券の評価などを含めた財務諸表の作成について習熟させる。		
3月	発展編 株式会社の取引 第29章 株式会社の取引と財務諸表	4	(知識・技術) 株式会社の設立と株式の発行について、基本的な内容を理解したか。 株式会社の純利益の計上・剰余金の配当と処分・税金の会計処理について、基本的な内容と記帳方法を理解したか。 (思考・判断・表現) 株式会社の財務諸表の作成について、自らの思考を深め、適切に作成しているか。 (主体的に学習に取り組む態度) 個人企業と株式会社の会計処理や財務諸表の違いについて関心をもち、自ら進んで調べる態度を示しているか。	学習ノート 単元テスト	・株式会社の設立と株式の発行時の記帳方法を理解させる。 ・純利益の計上と剰余金の配当および処分に関する取引の記帳方法を理解させる。 ・法人税・住民税・事業税の記帳方法を理解させる。 ・株式会社の財務諸表の作成に習熟させる。		地歴公民科との連携
指導時間数の計		105					